

くまもと半導体産業推進ビジョン

ビジョン策定の背景と課題

- ◆新型コロナウイルスに伴うデジタル化の進展及びデジタルサービスの普及に伴う半導体需要増大
- ◆経済安全保障の観点から国内製造の必要性の拡大
- ◆SDGsの機運の高まり

TSMCの熊本県進出を契機とした半導体産業をはじめとする
県内産業の更なる振興と県下全域における県経済の成長の実現

◆県内半導体産業の更なる成長のために対策すべき課題◆

半導体を
安定的に生産するために
必要な競争力や
インフラなどへの不安

直近及び
将来的な半導体
人材の不足

アカデミア、産業界など、
多様なプレイヤーの
連携機会の不足

2030年頃
に向けて
目指す姿

半導体インフラを支え、挑戦し続ける熊本

①世界に半導体を供給し続ける拠点・熊本

②半導体人材が集う拠点・熊本

③半導体を核とした産業創出拠点・熊本

2030年頃に向けて目指す姿

半導体インフラを支え、 挑戦し続ける熊本

くまもとの半導体が
世界中のデジタルを
支えている

世界に半導体を供給し続ける拠点

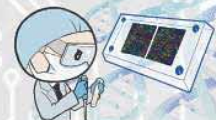
- 強靱な半導体サプライチェーンを有する世界における重要な半導体集積拠点
- 世界に範たる環境と調和した産業の形成
→半導体サプライチェーン全体で、脱炭素化やGX、環境負荷が低減
- 世界に先駆けた三次元積層実装産業集積地

半導体人材が集う拠点

- 世界トップレベルの半導体人材が集い、活躍している
- あらゆる世代の県民が半導体に親しみと、誇りを持っている

半導体を核とした産業創出拠点

- 異分野融合によるベンチャー・スタートアップや新たな産業の創出
- 最先端の半導体を利用したDX/GXの推進
- 世界中からヒト・モノ・カネが集まり、世界と繋がるイノベーション・エコシステム拠点



3つの方針と取組み

方針
1

半導体サプライチェーンの強靱化

熊本県の強みである前工程や半導体製造装置の競争力をさらに高めるとともに、材料及び設計の“川上”から後工程の“川下”まで切れ目なくつながる強靱なサプライチェーンの構築を目指す。
さらに、革新的な最先端技術の研究開発を推進し、日本の半導体サプライチェーンの中長期的な国際競争力強化を熊本で目指す。

方針
2

安定した半導体人材の確保・育成

半導体・デジタル領域の幅広い知識を持ち、様々な産業領域で活躍できるグローバル人材の育成・集積を図るとともに、地場中小企業を含めたDXの促進を図る。

方針
3

半導体イノベーション・エコシステムの構築

多様化するユーザー企業（出口産業）と連携・協業するとともに、半導体関連産業で培った技術や資源をもとに、バイオやライフサイエンス産業等の異分野と融合し、新たな産業を創出するなど、産業創造の連鎖を生み出すイノベーション・エコシステムを構築する。

位置づけ

令和3年（2021年）3月に策定した「新しいくまもと創造に向けた基本方針」を踏まえながら、県の産業政策全体の指針である「熊本県産業成長ビジョン」における特定の産業分野の計画として位置付け、熊本県における今後の半導体関連産業施策の方向性について示すものとする。

計画期間

令和5年度（2023年度）から令和14年度（2032年度）の10年間。
なお、社会環境の変化や取組み状況等に応じて、計画期間内であっても必要な見直しを断続的に行う。

進捗管理と推進体制

「くまもと半導体産業推進ビジョン」における3つの方針に基づく政策を効果的に進めるために、産業界、大学・教育研究機関、支援機関、金融界、政府と緊密に連携して取り組む。また進捗を評価することで目指す姿の実現につなげていく。

目標値の設定

本ビジョンに掲げる目指す姿及び重点的な取組みの進捗を評価し、その上で取り組むべき施策の方向性を明らかにするため目標値を設定する。

指標	目標値	現状
半導体関連産業製造品出荷額等	2兆8,000億円 (2032年)	8,290億円 (2019年)
半導体関連企業の新増設件数(累計)	130件 (2032年度)	13件 (過去10年間の平均)
半導体関連産業の雇用者数	25,490人 (2032年)	21,275人 (2019年)
県内大学・高専・高校卒業後の県内半導体関連企業への就職者数	500人以上 (2032年度)	270人 (2021年度)
半導体関連ベンチャー・スタートアップ企業の創出・進出数(累計)	10件 (2032年度)	- (2021年度)
県及び関係団体が提供する場における半導体関連の海外企業との商談件数(累計)	2,500件 (2032年度)	54件 (2021年度)